

ネイティブ大腸菌ペニシリンアミダーゼ

Cat. No. NATE-0541

Lot. No. (See product label)

はじめに

背景 *E. coli*におけるペニシリンアミダーゼの生合成は、疎水性タンパク質クロマトグラフィーによる誘導反響であり、代謝された炭素源（例：ポリオール、カルボン酸など）によって調節されます。また、分解代謝抑制の影響も受けます。これは、アシル-酵素中間体を介してアミド結合の形成を触媒します。

用途 ペニシリンアミダーゼは、抗生物質の分解におけるAHL（N-アシルホモセリンラクトン）からの脂肪酸およびHSL（ホモセリンラクトン）の放出に阻害する効果を研究するために使用されました。これは、*Lactobacillus*属における胆汁塩加水分解酵素およびペニシリンアシラーゼファミリーの機能解析の研究において、ペニシリンGアシラーゼ活性を測定するための陽性対照として使用されました。ペニシリンアミダーゼは、ペニシリン-Gから6-アミノペニシラニン酸の合成や、β-ラクタム抗生物質の工業生産に使用される可能性があります。

別名 ペニシリンアミダーゼ; ペニシリンアシラーゼ; ペンジルペニシリンアシラーゼ; ノボザイム 217; セマシラーゼ; α-アシルアミノ-β-ラクトンアシルヒドロラーゼ; アンピシリンアシラーゼ; EC 3.5.1.11; 9014-06-6

製品情報

由来	大腸菌
形態	タイプII、硫酸アンモニウム懸濁液、0.1 Mリン酸塩中の懸濁液、pH 7.5および3 M硫酸アンモニウム。
EC番号	EC 3.5.1.11
CAS登録番号	9014-06-6
分子量	Mr ~70 kDa
活性	タイプI、5-10単位/mgタンパク質; タイプII、> 10単位/mgタンパク質 (E1%/280)。
単位定義	1 Uは、pH 7.6および37°Cで1μmolのペンジルペニシリンを1分間に加水分解する酵素の量に相当します。

保管・発送情報

保存方法 2-8°C